

青島神社：元宮

元宮（「元々の神社」）は青島の真ん中、古代から崇拝と祭祀の場となってきたところに立っています。この地下からは、弥生時代（300 BCE–300 CE）に宗教的儀式で使われた可能性が高い土器、骨、貝殻などの遺物が出土しています。ここに青島で最初の神聖な建物が建てられたのは1,000年以上前のことであると考えられています。江戸時代（1603–1867）には、信仰心の篤い人々がここで病気からの保護を求めて祈り、しばしばその信仰心の印として髪の毛の束を残していきました。この伝統が形を変えて今に伝わり、参拝者は神聖な紙縊を神社の近くの木や縄に結びつけて願い事をするようになっています。1907年には当時の嘉仁皇太子殿下（大正天皇、1879–1926）がこの神社に来られたことで注目が高まり、その後多くの皇族方が元宮に来られて祈られています。かつては神道の神主と皇族方しか立ち入れませんでしたが、1960年代末に一般の人でも神社に入れるようになりました。